



システム障害に係る対応状況について

一般社団法人全国銀行資金決済ネットワーク

2023年10月18日



全銀ネットの概要

◆ (一社) 全国銀行資金決済ネットワーク (全銀ネット)

- 資金決済法にもとづく資金清算機関。(2010年、全国銀行協会の一事業部門から独立し、一般社団法人化。非営利法人。)
- 全銀システムおよび全銀EDIシステムの運営、内国為替取引に関するルール整備等を行う。

◆ 全国銀行データ通信システム (全銀システム)

- 国内におけるほぼすべての預金取扱金融機関が接続し、相互間の振込や送金をオンライン・リアルタイムで処理するシステム。
- 2018年から、平日日中(8時30分～15時30分)の振込に対応する「コアタイムシステム」と平日夜間(15時30分～8時30分)および休日の振込に対応する「モアタイムシステム」を通じて、24時間365日稼働。

【参加金融機関数・取扱件数等】

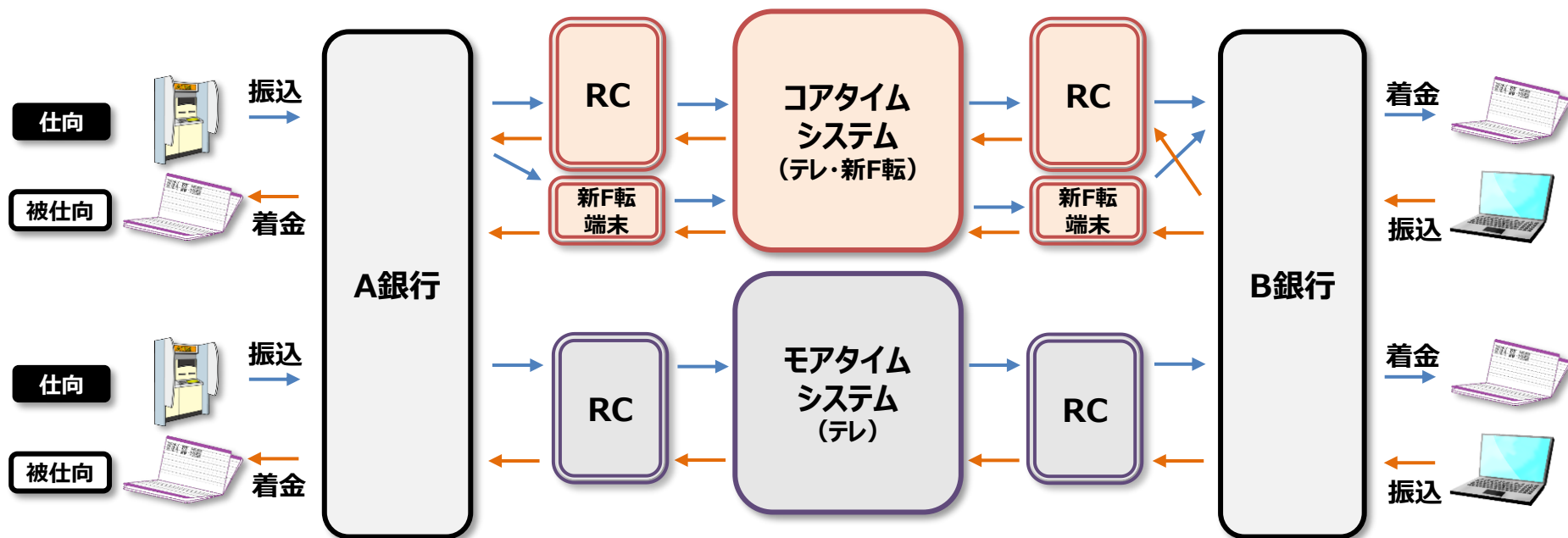
利用金融機関数	1,133機関 (銀行・信用金庫・信用組合・農協・ゆうちょ銀行など) (2023年9月末時点)
店舗数	29,456店舗 (2023年9月末時点)
取扱件数・金額	年間：約22億件・約3,546兆円 (2022年度実績) 1営業日平均：約911万件・約14兆円 (2022年度実績)
処理能力	<コアタイムシステム> 【テレ為替】3,000 万件／日 【新ファイル転送】3,100万件／日 <モアタイムシステム> 【テレ為替】540 万件／日



全銀システムの概要

- 全銀システムは、平日日中の処理を行う「コアタイムシステム」と平日夜間および休日の処理を行う「モアタイムシステム」、および各金融機関をつなぐ「中継コンピュータ（RC）」からなる。
- コアタイムシステムは、1件ごとの振込に対応した「テレ為替」と、複数の振込を一括で送信する「新ファイル転送」の2つの機能を具備。モアタイムシステムは「テレ為替」のみ具備。
- それぞれのシステムは、東京と大阪で冗長化（二重化）※。金融機関は、お客さまの振込依頼にもとづき、振込金額や受取人口座番号を入力した電文をRCへ送信。

※平常時から両システムを並行稼動しており、障害発生時は片方だけでも稼動。

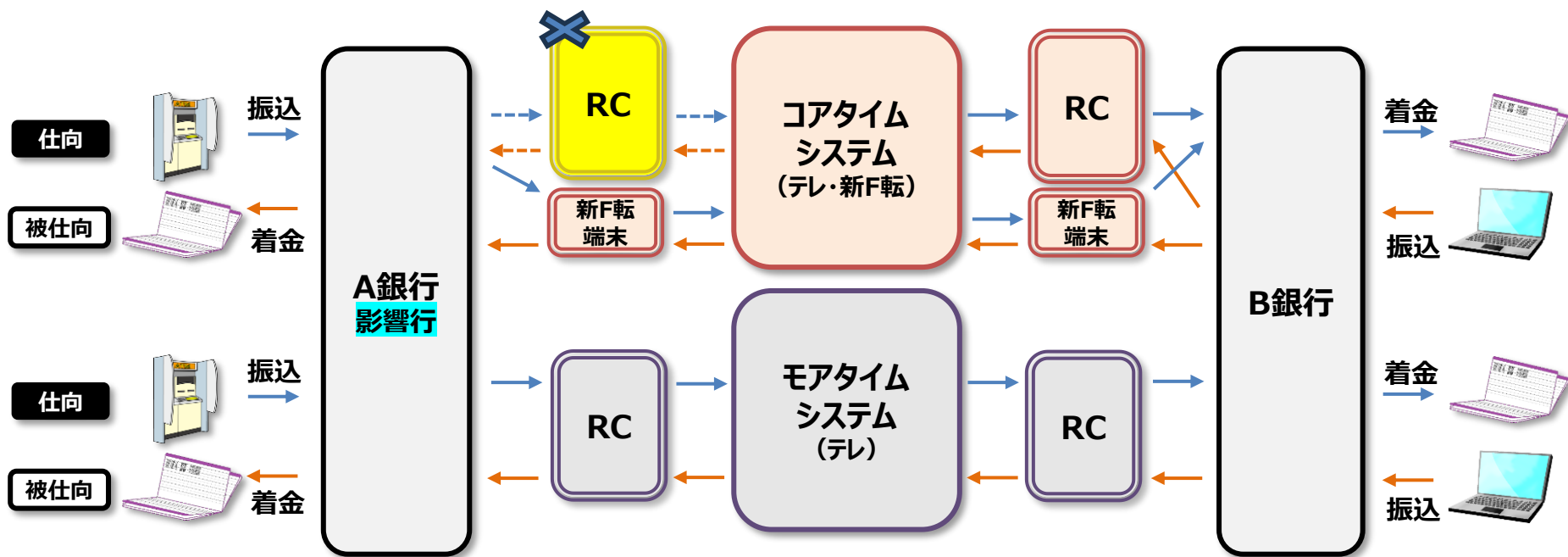




発生事案

- 10月7日（土）～9日（月・祝）において、RCの新機種（23シリーズ）への更改を14の金融機関で実施。
※これまでのRCは各機関に設置されていたものの、RC23シリーズは、全銀センターに集約して運用。
- しかしながら、10月10日（火）のコアタイムシステムの通信開始（8時30分）後、10行※において、更改したRC（黄色部分）で電文の送受信ができなくなる（後述の代替対応を実施）。

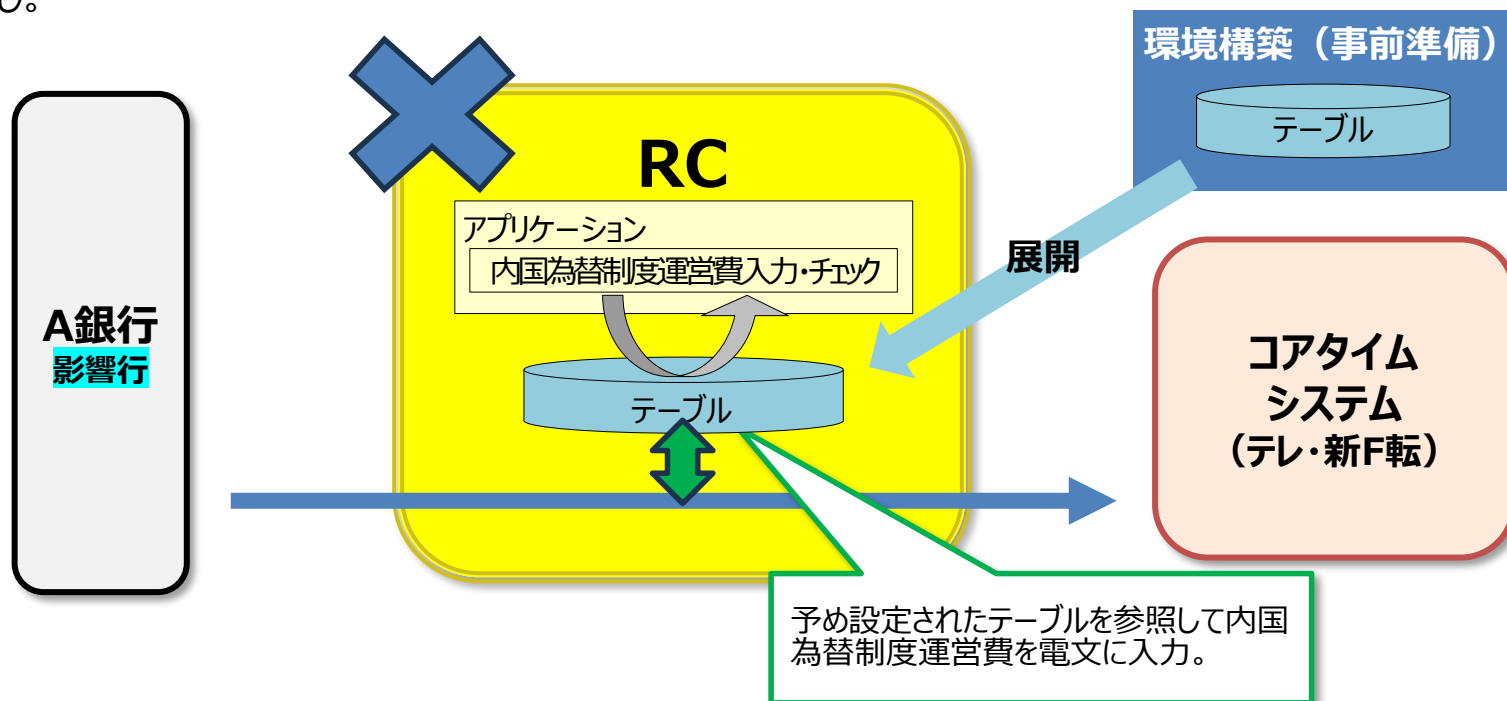
※三菱 UFJ 銀行、りそな銀行、埼玉りそな銀行、関西みらい銀行、山口銀行、北九州銀行、三菱UFJ信託銀行、日本カストディ銀行、もみじ銀行、商工組合中央金庫。なお、JPモルガン・チェースはコアタイムシステムのRCを新機種で開始。





障害の原因

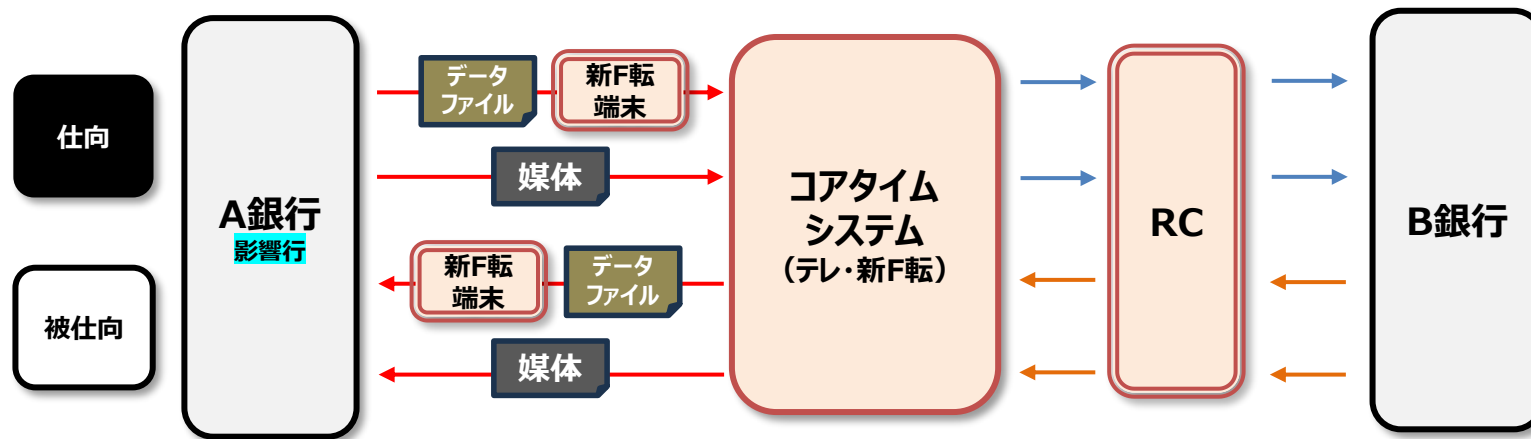
- 電文1件ごとに、仕向機関が被仕向機関に支払う「内国為替制度運営費」（金額は種目により異なる）については、「①金融機関が予め電文に金額を入力してRCに送信」、「②予めRCに設定されたテーブルを参照して、RCが電文に金額を入力」、のいずれかの方法がある。
- 今回、②の方法を採用している10行において、「予めRCに設定されたテーブルをRCが参照する処理」でエラーが発生し、RCが異常終了した。
- なお、①の方法を取った3行は影響なし。また、JPモルガン・チェースのコアタイムシステム用のRCは、旧機種のみであった。コアタイムシステムにおける障害を踏まえて、モアタイムシステム（接続は任意）に接続していないため、結果的に影響なし。





代替対応

- 障害発生中の10月10日（火）・11日（水）においては、今回のRC更改における計画にもとづき、バックアップ手段（RCを利用せず、データファイルや媒体で影響行とやりとり）で対応。
- データファイルについては、新ファイル転送のバックアップ機能（RC障害中も利用可）で送受信。



- 一方、障害の影響により、内国為替制度運営費の設定が必要となる等、通常想定以上に媒体やデータファイルの用意等に時間を要し、影響行を仕向とする取引のうち、媒体やデータファイルの用意が間に合わない等の理由から、当日中に処理が完了しない取引が発生。（概算件数は以下表参照。数字は精査中であるため変動する可能性あり。）
- また、影響行を被仕向とする取引も、通常よりも処理に時間を要した。

(万件)	10/10分		10/11分	
	仕向 (送信)	被仕向 (受信)	仕向 (送信)	被仕向 (受信)
全体	150	152	105	99
処理済 (10/11通信終了時)	101	152	67	99
未処理 (10/11通信終了時)	49	0	38	0



復旧対応

- 「予めRCに設定されたテーブルを、RCが参照する処理」においてエラーが発生したことを踏まえ、RCに対して、以下のプログラム修正を実施。
- 10月11日（水）の暫定対応においてエラーは解消。

対応期間	RCに対するプログラム修正内容	結果
10月10日（火） 通信終了後～	<ul style="list-style-type: none"> 「予めRCに設定されたテーブルを、RCが参照する処理」において不具合があることを踏まえ、RCが、テーブルを参照せずに、取引の種目を判別して金額入力する方法に修正。 【暫定対応①】 	左記の方法で修正を試みたものの、取引の種目を判別して金額を入力する改修処理が複雑となり、試験時にエラーが発生。翌営業日のRC起動時刻までの対応が困難であったため対応を中断。
10月11日（水） 通信終了後～	<ul style="list-style-type: none"> 前日の状況を踏まえ、RCが、内国為替制度運営費入力欄に一律0円を入力するシンプルなかたちに修正（正しい内国為替制度運営費が入力されていないため、暫定対応となる。）。 【暫定対応②】 	エラー解消 (障害復旧) ※内国為替運営費は金融機関間で受渡す資金であり、顧客影響なし。



今後の対応

- 10月13日（金）、金融庁から資金決済に関する法律第80条第1項にもとづく報告徴求命令を受領。本報告徴求命令にもとづき、本件に関する**事実認識・課題認識、障害の発生原因分析、預金取扱金融機関等との連携、システムリスク管理体制に対する経営管理・課題認識、改善・再発防止策等**につき、金融庁に中間報告を含めて**11月末までに報告予定**。
- あわせて、**本件障害に伴いお客さまに発生した損害に対する補償の考え方について、加盟金融機関による申し合わせを10月18日（水）に行い、公表**。

今回の不具合の原因究明・再発防止策の策定等に取り組んでいきます。
我が国の経済取引の基盤となる決済システムを運営しているということを今一度自覚し、
社会の皆さまからの信頼を早期に取り戻すべく、全力を尽くしてまいります。